

# 的外



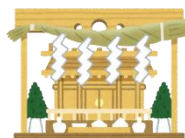
みのる法律事務所  
弁護士 千田 實  
〒021-0853  
岩手県一関市字相去57番地5  
TEL : 0191-23-8960  
FAX : 0191-23-8950

みのる法律事務所便り  
第356号  
令和元年12月



い な べ ん だ べ ん く  
田舎弁護士の駄弁句 ⑤9

神棚を 燃やして晴らす うつぶんを  
ギアを入れ替え お詫びとお礼に



令和元年11月27日

青空浮世乃捨

親父は、終戦直後の赤貧状態の中で、「こんな神は、貧乏の神だ」と叫んで、神棚を囲炉裏で燃やしてしまいました。罰当たりです。報いを受けても仕方ない悪事というべき行為です。こんなことは、どなたにも勧められない行為です。

ですが、神棚を燃やすという親父の罰当たりの行為を目の当たりにし、お袋が変わりました。なりふりかまわず働く決意をし、行商を始めました。長兄、次兄も、まだ4歳だった私も変わりました。本気になりました。前向きになりました。親父も神を頼るなどという気持ちは捨てました。

我が家では、誰もが神様を頼るなどという考え方、生き方を完全に捨てました。自分ができることに全力を尽くそうという考え方、生き方になったのです。

それからは、少しずつ赤貧状態が改善されていきました。神様を頼まず、自分達のやれることをやった結果です。

親父が、「この神は、貧乏の神だ」と喚いたのは、それまでの神に対する親父の考え方が間違っていたからです。神を頼んで、自分はやらなかったのです。人事を尽くさなかったのです。神は何かを頼んだり、求めたりする対象ではないのです。この神を拜んだら、御利益があるなどという宗教は偽宗教です。神はもともと、この世に存在できていること自体や、いろいろなことをやらせてもらっていることを感謝するための対象なのです。その感謝の心を具体的に示すために、神棚に向かって手を合わせるのです。親父はそこを履き違えていたのです。

親父の神棚を燃やした行為は、決して褒められる行為ではありませんが、神頼みはしないという決意を固めるための行為であったら、やり方は乱暴すぎますが、理解もでき、納得もできそうです。

孔子は、「人事を尽くして天命を待つ」と語ったそうですが、神を頼る前に人事、つまり人間としてできることをやって、あとは天命、つまり、天によって決められた、どうすることもできない運命をありがたいと感謝し、受け容れ、それに従うだけだという潔い生き方をしたいものです。

親父が神棚を燃やしたのは、昭和 21(1946)年の 12 月でした。今年も 12 月になりました。毎年 12 月が来ると、必ずこのことが思い出されます。

もう 73 年も昔のこととなりましたが、未だに忘れることのできない思い出です。77 歳となった今日、具体的にどの神様という特定の宗教は持っていませんが、「親父が神棚を燃やしたことをお許し下さい」とお詫びをし、「今日も一日楽しく過ごせました。ありがとうございます」と目には見えない何かに向かって、お礼を申し述べています。

いなべん だべんく  
田舎弁護士の駄弁句 ⑥0

釜を売り 買って食べた コッペパン



あの大晦日が あつての今日ぞ



令和元年11月27日

青空浮世乃捨

毎年12月が近付き、今年も大晦日が来るのかと思うと、親父が神棚を燃やしたことと共に、神棚を燃やした前年に、親父が釜を売って、コッペパンを買って来て、親父と2人の兄とで、そのコッペパンを食べて越した昭和20（1945）年の大晦日を思い出してしまいます。

当時妊娠中のお袋は、食料を恵んでもらうため実家に帰っていて留守でした。親父と小学2年の長兄と幼稚園に通っていれば年長組の次兄と、3歳の私の4人でコッペパンを分け合って、昭和20年の大晦日を貧しく、寂しく、静かに送りました。

実家に帰っていたお袋は、残して来た親父や、3人の子供達がどれ程気掛かりだったのでしょうか。釜を売ってコッペパンを買って来た親父は、明日からどうしようと考えていたのでしょうか。

当時は、そんなことは考えられませんでした。その場に臨んでいますと、あまり考えないものです。その場に溶け込んでいて、もともとそういうものだと思い込み、そこに馴染んでしまっていますから、辛いとも、苦しいとも可哀相だとも思わないものです。ですから、辛かったという思いはしませんでした。

ですが、その場から離れれば、離れる程、時が経てば経つ程、自分のことでも客観的というか、第三者的に見ることができるようになります。あれから73年経った今日、親父もお袋も亡くなり、次兄も亡くなりました。

だんだん昭和20年の大晦日のことは、第三者の目で見るとなりました。第三者の目で見ますと、あの時の親父の気持ち、お袋の気持ち、長兄、次兄の気持ちはどうだったろうかと思え、涙が流れてきます。3歳の私のことも、自分のことでなく、子や孫に置きかえて、考えてしまうのです。そうすると、途端に涙が湧くのです。子供や孫には、ああいう思いはさせたくないと思うのです。

私には、8歳と6歳の孫がいます。その孫を当時の私に置きかえ、あの場に置くことはできません。考えただけで身震いします。3歳当時の私にも、かわいそうだったと同情してしまいます。

当時の親父にもお袋にも、長兄にも、次兄にも、辛かったですよと声を掛けています。今となっては、当時の親父もお袋も長兄も次兄も私も、第三者に見えてきて、舞台上の演劇を見ているようで可哀相になってくるのです。涙が出ることもあります。

そして、なんで昭和20年当時は、あんなに酷い<sup>ひど</sup>状況だったのだろうと考えてしまいます。

親父にも、お袋にも才覚と努力が足りなかったという点がなかったとは言いきれないでしょうが、それだけではありません。約4か月前の8月15日に終戦となり、戦後の食糧難という時代背景こそ、真の原因だったのです。戦争こそ、私達のような家族を全国に沢山生み出した原因なのです。

私は、そう確信していますので、親父やお袋を恨む気はありません。戦争を恨みます。戦争に対しては、心の底から不満があり、機会があれば、仕返しをしたいという気持ちです。

ですが、終わったことには仕返しもできません。この恨みを晴らすためには、戦争に向かうものに対し、ぶっつける他はないのです。兵器は戦争するための道具です。兵器を購入したり、日本で兵器の展示会を開催したりする現在の政権のあり方には、徹底抗戦します。抗戦すると言っても、体力も経済力もありません。せいぜい、この事務所便りなどで語るだけですが、73年前の大晦日の思い出がそのようなことをさせているのです。

# 少年よ、大志を抱け

## この老人の如く



「少年よ、大志を抱け」という言葉は、札幌農学校を去るときに、クラークが発した言葉としてよく知られています。英語では、「ボーイズ ビー アンビシャスBoys, be ambitious」と紹介されています。

ところが今回、インターネット情報によって、本当は、ボーイズ ビー アンビシャス「Boys, be ambitious like this old man」だったということを知りました。これですと、「少年よ、大志を抱け この老人の如く」となります。平たく言うと「年を取っても、私は野望がある。君達も大きな野望を持て」と言うことになりそうです。

このことを知り、クラークは、素晴らしい人だと以前より尊敬の念が深くなりました。若い人に大志を抱けというのは、誰でも言えそうですが、年を取っても野望を抱くということは難しいことです。

クラークは、札幌農学校を去る年になっても、大きな野望を持っていたのです。野望とは、「天下を取ろうというような身分に過ぎた大きな望み」（角川必携国語辞典）ですが、年を取ってもそのような望みを持っているということは、素晴らしいことだと思うのです。

特にも、後期高齢者となったり、定年退職したりしますと、人生が終わったような気分となり、「余生を送る」などということになります。静かに余生を送ることも素晴らしい人生だと思う方も大勢います。それは、それとして、老人の過ごし方の一つでしょう。

ですが、私のような跳ね返りもあります。何かやっていると暇を持って余してしまう人もいます。生きている限り、何かをやりたいのです。

何かをやる以上は、大きな望みを持ってやりたいのです。「棒ほど願って針ほど叶う」という諺ことわざがあります。望みや願いは、大きく持たないと、結果は得られないのです。棒ほど願って、やっと針ほどしか叶わないのです。

年を取っても野望を抱くことは、素晴らしいことだと普段考えていますので、このクラークの「少年よ、大志を抱け」の後に、「この老人の如く」が続いているということを知り、嬉しくなっていました。

嬉しくなったと同時に、私も野望を抱いてみようと考えました。『人生は、いまの一瞬を、まわりの人といっしょに、楽しみ尽くすのみです』という『いなべんの哲学』を命のある限り、一人でも多くの人に知らせ続けようと考えました。このいなべんの哲学は、私のこれまでの体験から生まれた経験則に基づくものです。私のこの哲学は、『経験哲学』と呼びたいと思います。経験哲学を広く知らせることを、これからの野望の一つとしたいのです。

もう一つは、『戦争絶対反対』、『核廃絶』を、書いたり、語ったりし続けようと思いましたが、そのために、あらゆる手段で、手を替え品を替え世の中に訴え続け、全国津々浦々にこの思想を伝えることにしました。

全国津々浦々に自分の思想を普及させるという私の野望は、「富士の山ほど願ってありつか蟻塚ほど叶う」という諺のように、私をいつもご支援下さるこの事務所便りをお読み下さっている皆様の内の何人かに共鳴して戴くという程度の結果に終わりそうですが、棒ほど、富士の山ほど野望は抱き続けて生きていきたいのです。

ボーイズ ビー アンビシャス 「Boys, be ambitious」に止めず、ライク ディス オールド マン 「like this old man」を続けたいのです。年を取ってこそ、「この私のように、野望を持ち続けて下さい」と言いたいのです。『人生は、いまの一瞬を、まわりの人といっしょに、楽しみ尽くすのみです』という『いなべんの哲学』を、『経験哲学』を広めるためお力をお貸し下さい。平成31年、令和元年は、お世話になりました。令和2年も宜しくお願い申し上げます。

この事務所便りをお読み下さっている皆様、令和2年は、益々野望を持って、人生を楽しみ尽くしましょう。



## 桜を見る会と税務職員

桜を見る会問題で、国会とマスコミは大騒ぎです。安倍首相、菅官房長官をトップとする政府側は、「出席者名簿等の記録を出せ」という野党の要求に対し、「その記録はシュレッターにかけたので無い」という答弁を繰り返しています。「パソコンのデータを復元して出せ」という野党の追及には、「復元できない」等と答え、資料を出しません。「野党が資料提出を求めた日に、シュレッターにかけたのは、シュレッターが混んでいたのが偶然だった」という政府側の説明を納得する国民は誰もいないでしょう。



このやりとりを見ていて、税務署職員の皆様が気の毒になりました。法人税や所得税を取り立てなければならない税務徴収担当者の皆様が、気の毒になりました。これでは、税務署の調査官は、国民に対し、収入や支出を示す裏付け資料の提出を求めることなどできません。「そんな資料は、もうシュレッターにかけてありません」とか、「復元はできません」と納税義務者から言われたら、それ以上の追及はできません。

行政のトップが、あのように言っているのですから、行政側の税務署側が、国民に対し、納税の資料を出すように強要することなどできません。これでは税務調査官は、税務調査がしにくくなります。

政府のトップが、自分に都合の悪い資料は国会に提出しないばかりか、その資料を出すように要求された当日に、「シュレッターにかけて処分した」では、税務署の調査官が、納税者である国民に、収入や支出を裏付ける資料の提出を求めても、「そんなものはありません」と国民に言われても、文句の言いようもなくなってしまいます。それ以上の追及はできません。政府が、そのようなことをやっぴながら、国民にだけそれを求めることなどできません。

このような状態にしてしまったことを、安倍首相も菅官房長官も官僚も認識しているのでしょうか。このような税務に関するトップの下で、税務徴収の任務を担当している現場の税務職員の皆様が気の毒にならないのです。

安倍政権は、一方では膨大な税金を使い、憲法が禁止している兵器を購入し、他方では、自分に都合の悪い資料は処分してない、等と言って国民の目に見せないようにしながら、国民からは税金を取り立てる方法をマイナンバー制とか、キャッシュレス制などと、次から次へと国民、特に私のような老人には分かりにくい制度を作り、これを強制し、税金を取ろうとしています。

税金を納める国民として、安倍政権のこのようなやり方に不満が募りますが、それだけではなく、徴収する現場の税務職員が気の毒でないのです。

一方では、「憲法違反の兵器購入資金には、国民の納めた、少なくとも私の納めた税金は使うな。トランプと安倍首相がゴルフや飲み会をするために、私の納めた税金は使うな。そんな税金は納めたくない」と言われ、他方では、「資料をシュレッダーにかけて出さなくて良いなら、私も資料など出さない」と言われ、税金の徴収は難しい状況となります。国民から直接税金を徴収する税務職員は、いよいよやりにくくなりそうです。

安倍政権は、兵器購入だとか、東京オリンピックだとか、金のかかる政策で、一見景気が良さそうなムードを作っていますが、国の、国民の借金は膨れる一方です。税金徴収は、どんどん厳しくする方向となるのではないのでしょうか。

いくら、税金徴収の現場職員の尻を叩いても、行政のトップが憲法違反のステルス戦闘機の大量購入や、桜を見る会での資料提出におけるあの体たらく（ぶざまな姿）では、税金を徴収する任務を担当している税務職員は、その任務を果たすのは難しくなるのではないのでしょうか。そのような税務職員が気の毒でなりません。主権者である国民は、自分達が納めた税金の使われ方を監視すると共に、政府のトップの連中や官僚と、税務徴収業務を担当する税務職員は、立場が違うことを意識すべきです。税務職員は、国民の納税義務を適正に果たすため協力している立場であり、税金を使うのは、政権担当者や官僚です。集めた税金を使う安倍政権に対し、税金を集めるのに四苦八苦している税務職員は、文句を言うべきです。その前に、税金を納めている国民が文句を言うべきです。